# 出来て当たり前、1つのミスが信頼をなくす

## 軟式野球 審判技術員
## 荒関（あらぜき） 淳一（じゅんいち） さん

北海道軟式野球連盟石狩支部で唯一の審判技術員を14年務め、新人審判員の技術向上と軟式野球の普及に努めている荒関淳一さん（JA北いしかり勤務）にお話を聞かせていただきました。

### 家族・職場の支えがあって

平成12年にJA北いしかり野球部を引退し、平成14年審判技術員となりました。引退後も野球に携わりたいという気持ちとお世話になった方々への恩返しの気持ちもあって、この道を選びました。仕事をしながら、審判ができるのは、家族と職場の理解があってこそであり、どちらにも大変迷惑をかけてきましたが、特に家族には感謝しています。現役の選手には、審判員や会場等大会の準備をする事務局スタッフの協力によって、野球がやれることを感じて欲しい。このことは野球に限らず、何かをやるときには、必ず裏方で頑張っている人がいることを分かって欲しいと思っています。

### 選手に信頼されなければ

技術員として心がけていることは、参加チームのマナー向上と、審判員による不公平感をなくすための技術向上です。審判員は選手に信頼されなければならず、あいまいなジャッジや自信のなさそうなジャッジをしては、選手や観戦者からの信頼を失ってしまいます。だからこそ、規則書を熟読して、ルールや審判の動きを覚えておく必要があります。ルールについては、選手はもちろんですが、特に少年野球の指導者にはしっかりと理解したうえで、選手を指導して欲しい。審判をやっていて一番うれしいことは、「試合をして楽しかった」とチームから声をかけられることです。審判員は出来て当たり前と思われる仕事で、10のうち9正しくても一つ間違えれば、文句を言われ信頼を失い、試合を壊してしまいます。気持ち良く、試合を楽しんでもらえる事が一番うれしいことです。

試合中に自信をもってジャッジをする荒関さん

### スポーツで地域振興を

私が農協に務め始めたころは野球人口も多く、町内に社会人チームが15くらいあり、町内大会も4回ほどありました。子ども会・育成会でも大会を行っていましたが、今では、当別中学校の野球部も単独で活動ができないというのを聞いて、とても寂しく思います。スポーツは地域振興の一つで、全道や全国大会が誘致できれば、商店街や宿泊施設の活性化にもつながり、地域振興にもなるのではないかと思っています。今月行われる全日本軟式野球大会天皇賜杯（てんのうしはい）は、軟式野球の中で最もレベルが高い大会です。札幌を中心に石狩・江別・千歳・恵庭・北広島・小樽で開催されるので、ぜひ試合を観て、野球への関心を持ってもらいたいです。私自身この大会で審判員として参加できることは光栄でもあり、楽しみにしています。

当別町のスポーツ振興、地域振興の在り方を野球に対する熱い想いと合わせて語ってくれました。

（8月9日取材）